

2010年度年次報告書



国際青年環境 NGO
A SEED JAPAN

一人が動く。
社会は変わる。



共同代表の言葉

2011年3月11日に発生した東日本太平洋沖地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今もなお、現地をはじめ、各所で復興のための活動を行っている皆様に敬意を示すとともに、被災された皆様が一日も早く元の生活に戻れますよう、心よりお祈り申し上げます。

2010年度は、愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）に向け、愛知目標や名古屋議定書を中心にキャンペーンや政策提言活動を行いました。日本や各国の政府関係者に対する働きかけや、「がけつぷちの生物多様性キャンペーン」を全国青年環境連盟（エコ・リーグ）と協同で実施するなど全国の青年を巻き込んだ活動を行いました。結果として、愛知目標や名古屋議定書は採択されたものの、多くの課題を残しました。名古屋議定書に関しては、引き続き、残された課題を解決し、南北間の不正を是正するための制度作りに対して、国内、国際レベルでの政策提言活動を継続します。

3月11日に発生した東日本太平洋沖地震及びそれに伴う福島第一原子力発電所での事故に対しては、未来世代の声として、再生可能エネルギーの供給を増やしていくエネルギー政策転換を今後具体的に求めていきます。

2011年は日本もいよいよ変革の機運が高まってくる年だと考えています。しかしながら、市民一人ひとりが問題に気づき、考え、発言し、行動できる社会の実現のために、A SEED JAPANの力はまだまだ不足していると感じざるを得ません。是非、皆様の継続的ないしは新規のご支援を頂ければ幸いです。

2010年度共同代表 江口健介 小林邦彦

A SEED JAPAN の使命

A SEED JAPAN は、環境問題の中に内在する社会的不正の解決を目指し、以下のことを踏まえ行動します。

1. 環境問題を経済や社会構造そのものから見据えていきます。

私たちは、環境問題や南北問題が進行している原因が経済や社会の構造そのものにあると考え、その根本にある原因を見据えて行動します。

2. 青年の立場から環境問題をわかりやすく伝えていきます。

私たちは、環境問題や社会的不正について、それらの問題と私たちのライフスタイルが密接につながっていることを、青年をはじめとする多くの人々にわかりやすく伝えていきます。

3. 長期的視野を持って社会を変えていきます。

私たちは、地球の未来を危惧するメッセージを継続的に発していきます。

そして、長期的な視野を持ち、現在の社会システムを変えていくための提案と行動を起こしていきます。

また、A SEED JAPAN は以下の立場を担っていかうという認識を持ち、行動します。

●**未来世代である青年としての立場**

私たちは、青年としての立場から未来世代の利益を訴えていきます。

また、現在の社会を変革し、新しい社会を創造していくことの出来る存在として、誇りを持って活動します。

●**NPO（非営利組織）としての立場**

私たちは、NPOの一員として、その社会的責任を認識して継続的に組織を運営していきます。

そしてNPO全体が相対的に強化されるように協力していきます。

●**行政・企業・NPOのパートナーシップを創造していく立場**

私たちは、環境問題を解決する為には、行政・企業・NPOのそれぞれが持つ問題解決能力をお互いに理解し、連携していくべきだと考えます。

私たちは行政・企業とのパートナーシップ、そしてNPO同士のパートナーシップを創造していきます。

●**世界の青年と協力し合う立場**

私たちは、国境を越えた環境問題に対応するためにも、また“南”の視点を十分に理解するためにも、

草の根で活躍する世界の青年達と積極的に協力していきます。

エコ貯金プロジェクト

〔 長期目標 〕

人やコミュニティ、環境にやさしいフェアなお金の流れを実現します。

〔 短期目標 〕

■啓発：これまでの銀行口座の預け換え宣言を中心とした「エコ貯金キャンペーン」については宣言額 10 億円の達成を機に「1兆円のエコ貯金キャンペーン」にパワーアップし、各種環境イベントと連携しながらエコ貯金の考え方の一層の普及を進め、環境・社会により配慮した金融機関にお金を預け変える市民を 10,000 人増やします。

⇒エコ貯金宣言はアースデイ東京 2010 において 10 億円を達成し、今後のさらなる拡大に向けて「1兆円のエコ貯金キャンペーン」を開始することができました。その後、キャンドルナイト 2010、エコプロダクツ等の環境関連イベントでの出展やプレゼンテーションにより、エコ貯金に対する関心層を増やすことができました。また、エコ貯金プロジェクトの公式 twitter アカウ



ント (@ecochokin) を開設し、フォロワーを 220 人以上まで増やすことができました (2011 年 5 月 15 日現在)。さらに、2010 年 12 月には「どこに行ってる? 東京のお金」と題して、都内金融機関の利便性・健全性・社会性を比較するサイトをスタートさせました。

■啓発：地雷廃絶日本キャンペーン (JCBL) と協働で展開している「どこに行ってる? 私のお金」キャンペーンを本格始動させ、4 月のアースデイ東京 2010 などの環境イベント、あるいは野外音楽イベントなどの来場者にキャンペーンへの参加を求めます。その成果として、自分のお金の行き先に関心を持つ市民を 10,000 人増やし、また自分がお金を預けている金融機関に倫理的な融資基準の策定を求める市民から金融機関へのレターを 3,000 通集めます。

⇒アースデイ東京 2010、JCBL のクラスター爆弾条約発効記念イベント等において「どこに行ってる? 私のお金」キャンペーンを展開し、市民から金融機関へのレターを約 250 通集めることができました。レターの数には目標には大きく及びませんでした。この活動を含めた一連の国際キャンペーンの影響もあり、8 月のクラスター爆弾禁止条約の発効に合わせて 3 大メガバンクがクラスター爆弾製造を資金使途とした融資を行わない内規をつくり、また 10 月には全国銀行協会が「クラスター弾の製造を資金使途とする与信は、国の内外を問わず、これを行わないこと」を加盟 184 行で申し合わせる等、大きな進展がありました。

■啓発：エコ貯金ワークショップを各種イベントなどの機会にあわせて開催し、エコ貯金の考え方の普及を図ります。

⇒エコ貯金のワークショップ自体は開催しませんでした。以下の各種イベントで講演やワークショップを行い、エコ貯金の考え方の普及を図りました。

・シンポジウム「私のお金、私の責任～貯金・年金・クラスター爆弾」(2010 年 4 月 23 日)

・オルタナサロン (2010 年 7 月 24 日)

・「わかもの科」課外ワークショップ (2010 年 11 月 28 日)

・多様化する国際協力 NGO と企業のパートナーシップシンポジウム (2011 年 2 月 25 日)

■啓発：エコ資産やエコ・フィナンシャルプランニングに関する勉強会を開催し、格差問題と資産形成の関係や年金・保険も含めたエコな資産運用の考え方について知見を蓄積します。

⇒他に優先となる活動が出てきたため、今年はこの目標に該当する活動は実施しませんでした。

■提言：メガバンクのみならず主要地方銀行なども含めた CSR に関する公開質問状を送付・回収し、日本の金融機関全体としての CSR の取り組みを推進します。具体的には、エコ貯金プロジェクトの考え方に共感し、イベントなどで連携できる金融機関を 3 行増やします。

⇒2011 年 1 月に 3 大フィナンシャルグループ (三菱 UFJ、みずほ、三井住友) に公開質問状を送付し、4 月に回答結果を公開しました。回答の結果、環境・社会配慮型事業への融資について、情報の公開が若干進みつつあること等がわかりました。主要地方銀行も含めた公開質問状は 2011 年度に実施予定です。また、イベントでは実際に大和証券、HSBC、中央労金など多様な金融機関と連携しました。さらに、環境金融行動原則起草委員会の進捗をウォッチし、ウェブサイトにモニタリングレポートを計 3 回分掲載しました。

■提言・啓発：「第 3 回エコ貯金フォーラム (仮)」などを通じて、環境・社会配慮型金融の普及促進のために預金者・金融機関の現場職員・金融機関の経営層がそれぞれの立場でできることを共有し、広く情報発信します。

⇒「第 3 回エコ貯金フォーラム ～ソーシャル・ファイナンスの発展のために 預金者、金融の現場、経営者ができること～」を 2010 年 6 月 27 日に開催し、金融機関、社会人、学生、行政担当者など幅広いステークホルダー約 100 名を集め、ソーシャル・ファイナンスの意義等について情報発信をしました。また、環境金融の内外情報サイト finance green watch のサポーターとしても情報発信に協力しています。

〔 総括 〕

2010 年度は、2010 年 4 月のアースデイ東京 2010 出展と 6 月の第 3 回エコ貯金フォーラム開催、および 2011 年 1 月に実施した公開質問状等を軸に活動を進めながら、JCBL との各種イベントでの協働、またエコ貯金プロジェクトのメンバーが各種シンポジウムなどで積極的に講演を行うことで、エコ貯金の考え方の普及啓発と金融機関への働きかけを強化した 1 年でした。また、新規に twitter 公式アカウントの開設、都内金融機関の利便性・健全性・社会性を比較するサイトをスタートさせるなど、これまでとは違った手法の導入も積極的に行いました。

ごみゼロナビゲーションチーム

〔 長期目標 〕

私たち「ごみゼロナビゲーション」は、「個人」が身の周りの問題に関心・無責任になることと、「社会のしくみ」が人々の対等な関係を拒み参加を受け入れないこと、この2つが社会の大きな問題だと考えています。「個人」と「社会のしくみ」という2つの問題が絡み合って「問題が解決しづらく参加を受け入れない社会」が生まれます。ごみゼロナビゲーションは「参加型社会」を目指して、「個人」と「社会のしくみ」を同時に変えていく取り組みに挑戦し続けています。例えば、投票率が上がり、多くの市民が国政に参加していく。生徒が自分の学校をよりよくするために学校と対話し、その意見が反映される。そんなことがたくさん実現する社会を目指しています。

〔 短期目標 〕

音楽フェスティバル、環境イベントを中心にイベントが、より環境負荷の低い参加型のイベントになります。

イベント以外の音楽のある日常の場にリユースを広げるために、ライブハウスやクラブでリユースカップが使用される状態になります。

〔 総括 〕

2010年も合計で28本のイベントで活動を展開しました。特に、ap bank fesでマイ食器の持参を呼びかけて、来場者が円滑にマイ食器を使用できるよう、運営を行いました。また、BEAT CONNECTIONでは、ごみゼロナビゲーションでも初めての屋内イベントでの活動も実施しました。



生物多様性の利用をフェアに！プロジェクト

〔 長期目標 〕

私たち「生物多様性の利用をフェアに！プロジェクト」は、生物多様性の保全や持続可能な利用がなされ、遺伝資源を地域住民や先住民が主体となって管理する権利を保障することを目標に活動をしています。

〔 短期目標 〕

■日本政府が、2010年10月に名古屋で開催される生物多様性条約（以下CBD）、第10回締約国会議（以下COP10）で国家主権と地域資源が法的に保障される遺伝資源へのアクセスと利益配分に関する議定書の採択に賛成し、締約国がその議定書を採択することを目指します。

⇒CBD/COP10の1つの歴史的な成果として、遺伝資源へのアクセスと利益配分に関する名古屋議定書が採択されました。しかし、全ての地域資源が法的に保障されることができなかった。よって、目標は半分程度達成されたと考えています。

〔 総括 〕

生物多様性条約が1993年に発効されて以来、課題となっていた第3の目的（遺伝資源の利用から生じた利益の公正かつ衡平な利益配分）の実行に向けた議定書が採択されたことは、非常に歓迎されるべきものです。しかし、議定書が機能するためには、途上国や先進国の各国が批准をし、国内制度に構築していく必要があります。



生物多様性の損失をゼロに！プロジェクト

〔 長期目標 〕

自然が保全・再生され、すべての人が安心して暮らせる生物多様性の豊かな社会を目指します。また将来世代に影響を及ぼす国際的な意思決定に青年が参画する社会を目指します。

〔 短期目標 〕

■生物多様性条約第10回締約国会議（以下、COP10）で、生物多様性の損失を止めるために有効且つ明確な目標（ポスト2010年目標）が合意されることを目指します。

⇒愛知目標におけるミッション、目標5、6、10、11を中心に提言活動を行いました。合意にこぎつけたことは一定の評価はできますが、ところどころ文言が弱められたことで、必ずしも有効とは言えない目標が作られました。

■COP10の意思決定プロセスに、累計250人以上の青年が関わり、その内主体的に活動を行うメンバーを30人以上育成します。

⇒講演会参加人数179人、がけつづちの生物多様性キャンペーン賛同人数1,047人、キャンペーンの活動人数80人というようにキャンペーン全体では多くのユースを巻き込んだ活動であり、とりわけCOP10期間中にも多くのメンバーの成長がみられました。しかし、実行委員会解散後も率先して活動を行う人材は少数となりました。

〔 総括 〕

2010年10月に開かれた生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）に青年の声を届け、有効な目標が作られることを目的とした活動を行いました。活動形態としては、全国青年環境連盟（エコ・リーグ）のCOP10-Projectと協働で「がけつづちの生物多様性キャンペーン実行委員会」を立ち上げ、全国的なネットワーク、啓発、提言活動でした。COP10では、主に愛知目標（新戦略計画）のミッションとその中いくつかのターゲットに絞って提言活動を行いました。決議に十分に反映されなかった内容もありました。しかしながら期間中は開催国の青年として存在感を示し、少なからず議論の流れに食い込んだこと、会場内からの情報発信を充実させたことなど、今後の国際会議での活動に対して多くの学びがあった活動となりました。



メディアCSRプロジェクト

〔 長期目標 〕

メディアが健全な民主主義の実現に貢献しうる公共性（メディアCSR）を果たします。個人が持続可能な社会のために主体的にメディアを選択する社会にします。

〔 短期目標 〕

■大手民間テレビ企業の社会的責任（CSR）報告書発行を繰り返し求めて、メディアCSRがテレビ企業、市民に広く認知されることを目指します。

⇒公開質問状は民放5社へ送り、回答は2社に留まった。回答した2社はCSR報告書発行の検討を開始する前段階という状況でした。市民へのメディアCSRの普及についても認知度は高まりましたが、広く認知されるレベルには至っていません。

■大手民間テレビ企業のCSR担当者、NPO、NGO関係者、そして300人以上の市民を招き、ホンキでメディアがCSRフォーラム（以下、メディアCSRフォーラム）を開催します。公共のものであるメディアの未来について、開かれた議論をする場とします。

⇒民放からはテレビ東京のCSR担当者に登壇いただき、市民メディアNPO、広告企業の方も交えての斬新な議論の場を設けることができました。内容の難解さからか、300人以上の来場者には至りませんでした。フォーラムは一定の評価と成果を得られました。

■メディアCSRフォーラムにて、大手民間テレビ企業がCSR報告書の作成および発行をすることの合意形成を得ます。

⇒CSR報告書発行について、フォーラムでは明確な合意形成は得られませんでした。しかし、フォーラム以降検討を開始する民放も出始めており、今後も動向に注視し、提言を続けます。

〔 総括 〕

2年目となる活動は、本格的な提言活動と市民への啓発活動を進める一年となりました。公開質問状の送付に始まり、民放CSR担当者、市民メディアとの交流など、既存メディアと市民メディアとの間で繋がる一方、イベントやTwitterを通じて広く市民へメディアCSRの重要性を伝えてきました。日本・世界の社会情勢が大きく変わる中、いよいよ2011年7月24日の地上デジタル放送完全移行の日が迫っています。この社会的タイミングを迎える時、さらなる既存メディアへの提言活動と市民への理解促進が求められており、またそれを行う必要があると考えています。



水プロジェクト

〔 長期目標 〕

2015年までに、安全な飲料水及び衛生施設を継続的にアクセスできない人々の割合が半減する社会を目指します。また、水循環の保全について、政府や企業が積極的に情報を開示し、また、市民が情報の開示を求める社会を目指します。

〔 短期目標 〕

■過剰取水などにより水を奪われている人が実際に存在することを明らかにし、それらの声を、Webサイトを通じて多くの人々に伝えます。

⇒山梨県白州町での現地調査を行い、住民の方の声を聞くことができました。また、企業による過剰取水や地下水管理の問題をまとめた報告をWebサイトに掲載することにより、日本における地下水管理の現状と住民のみなさんの声を市民に伝えることができました。

■日本国内の水源林から取水している企業に対し、水の利用や水源保全などに対するCSRについての公開質問状を送付および回収し、これらの企業がCSRとして水源林および流域の住民への配慮を行うことを推進します。

⇒東日本大震災の発生とその後の状況から社会的タイミングとして適切ではないと判断し、公開質問状の送付を中止しました。今後、震災による影響も考慮しながら、公開質問状の送付については継続して検討していきます。

■消費者の水問題に対する意識の底上げを行います。

⇒学生などの若者を対象としたワークショップの実施には至りませんでした。セミナーや勉強会を開催することにより、生活者であるイベント参加者へ水問題に関する意識の底上げをすることができました。

■年内に1度、イベントにてブース出展を行い、水プロジェクト（仮）の考え方を広く普及させると共に、志を共にし、連携していくことのできる企業やNGOとの新たな繋がりを作ります。

⇒エコプロダクツでのブース出展や勉強会、セミナーにおいて、水問題に対する水プロジェクト（仮）の考え方を広く伝え、またパタゴニアやAVEDAなどの企業やAMネットなどのNGOとの情報交換・協働などの連携も行うことができました。今後も、関係を継続するとともに戦略的な連携を行っていきます。

〔 総括 〕

ステップAのプロジェクトとして、手探りで「水と私たちのつながり」の実感を求めて活動した1年間でした。私たちの生活の根幹を支えている水の循環、そして、それらに訪れている危機を、リアリティをもって伝えるために訪れた白州町では、水が住民から遠ざけられ、解決の糸口の見えない状態になっていました。これは日本の縦割り行政の水資源管理の弊害であり、このような状態を国際規模でとらえたものが水戦争です。2012年3月には第6回世界水フォーラムが開催され、国際的な水管理について議論されます。制度上の抜け穴を指摘すると同時に、市民による問題解決の仕組みづくりに2011年度は取り組んでいきます。



2010年度収支計算書

(2010年4月1日から2011年3月31日まで)

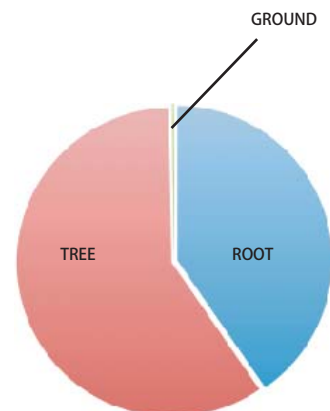
国際青年環境NGO A SEED JAPAN

科目・摘要	決算額	備考
I 収入の部		
1 会費収入	5,032,183	
TREE：学生正会員	150,566	
TREE：学生準会員	1,879,905	
ROOT：一般正会員	1,168,208	
ROOT：一般準会員	1,709,704	
特別会費	83,800	オリエンテーション参加費収入等
賛助会員	40,000	個人1名/1団体
2 事業収入	43,607,593	
プロジェクト横断型事業	3,521,983	各種事業参加費収入、委託収入、物販売上など
ごみゼロナビゲーションチーム	37,960,565	
エコ貯金プロジェクト	907,441	
生物多様性の利用をフェアに！プロジェクト	92,581	
生物多様性の損失をゼロに！プロジェクト	826,530	
メディアCSRプロジェクト	164,728	
水プロジェクト	133,765	2011年度より水源WATCH！プロジェクト
3 助成金等収入	9,730,150	
プロジェクト横断型事業	9,730,150	グリーンジョブ啓発創出事業等
4 寄付金収入	3,441,453	
A SEED JAPAN全体への寄付	2,815,363	
ごみゼロナビゲーションチーム	26,800	
エコ貯金プロジェクト	85,750	
生物多様性の利用をフェアに！プロジェクト	255,440	
生物多様性の損失をゼロに！プロジェクト	139,600	
メディアCSRプロジェクト	118,500	
5 協賛金	9,869,370	
ごみゼロナビゲーションチーム	9,869,370	
6 雑収入	18,400	
利息等	18,400	
7 事務所利用費	19,260	
印刷、コピー費	19,260	他団体利用分
当期収入合計 (A)	71,718,409	
前期繰越収支差額	41,193,183	
収入合計 (B)	112,911,592	
II 支出の部		
1 事業費	56,561,492	
プロジェクト横断型事業	8,522,003	グリーンジョブ啓発活動等
ごみゼロナビゲーションチーム	45,925,025	
エコ貯金プロジェクト	992,463	
生物多様性の利用をフェアに！プロジェクト	229,850	
生物多様性の損失をゼロに！プロジェクト	525,784	
メディアCSRプロジェクト	274,221	
水プロジェクト	92,146	
2 管理費	15,569,367	
人件費-給与手当	7,856,489	
人件費-福利厚生費	152,133	
地代家賃	2,212,000	地代更新費含む
水道光熱費	171,804	
消耗品費	377,506	ファイル、用紙等
新聞図書費	2,835	参考図書等
通信費	135,888	電話、FAX、インターネット等
発送費	492,005	通常発送、会報誌発送等
印刷費+リース料	568,945	複合印刷機、輪転機
旅費交通費	335,050	事務局スタッフ定期以外、事務局パートナー旅費
会議費	256,113	会議室利用費等
諸会費	7,000	オルタ、NPOマネジメント
保険料	1,000	事務所火災保険料
租税公課	1,016,500	収入印紙、国税等
支払手数料	16,855	銀行振込み手数料
業務委託費	1,406,470	印刷製本費、ITメンテナンス、税理士顧問料等
雑費	90,628	洗濯代、ごみ回収券等
減価償却費	399,000	複合印刷機
法人税	71,146	
当期支出合計 (C)	72,130,859	
当期収支差額 (A) - (C)	-412,450	
次期繰越収支差額 (B) - (C)	40,780,733	

会員内訳

会員総数（2011年4月末日時点）： 1,089人

会員種類	会員数	割合	正会員	準会員
TREE（学生）	639	59.3%	70	569
ROOT（社会人）	447	40.4%	146	301
GROUND（賛助）	3	0.3%	-	-



実施事業 一覧

月	実施事業名
4	アースデイ東京 2010 にて、ごみゼロナビゲーション / エコ貯金 / ケータイゴリラ / メディア CSR がブース出展
5	「全国アクション・キックオフ！ 生物多様性の損失の要因をゼロに！～みんなでゼロをつくらう～」を実施 (かけっぶちの生物多様性キャンペーン実行委員会主催) 「現地調査報告会 ～携帯電話から向き合う地球とゴリラの未来～」を開催
6	「第3回エコ貯金フォーラム ～ソーシャル・ファイナンスの発展のために 預金者、金融の現場、経営者ができること～」を開催 「COP10 重要議題 ABS の議定書に関する記者懇談会」を開催
7	環境ボランティア見本市にてメディア CSR がブース出展 FUJI ROCK FESTIVAL にて環境対策事業を実施 (他 27 本の野外音楽フェスティバルで環境対策事業を実施) FUJI ROCK FESTIVAL にて生物多様性の損失をゼロに！ / ごみゼロナビゲーション / ケータイゴリラがブース出展 COP10 重要議題「遺伝資源へのアクセスと利益配分に関する第9回 Part2 作業部会」(ABS-WG9 Part2) への参加 「ホンキでテレビが CSR フォーラム 2010 ～今こそ求めたいマスメディアの公共性と社会的責任(CSR)～」を開催 「未来のために投票しよう！ COP10 開催 100 日前 × 参院選～この一票は未来のために！プロジェクト～」を実施 (かけっぶちの生物多様性キャンペーン実行委員会主催) 「遺伝資源へのアクセスと利益配分 (ABS) に関する国際交渉の現状と課題～第9回 ABS 作業部会の結果と COP10 / 名古屋議定書に向けて」を開催
8	全国青年環境連盟 (エコ・リーグ) 主催「全国ギャザリング 2010 ～ユースが変える世界の未来～」の分科会担当 「COP10 に向けたユースアクティビスト・トレーニング～効果的なアドボカシーを学ぶ～」を開催 「～国際的な水資源の持続可能な利用と金融の役割に関する勉強会～」を開催
9	「生物多様性 COP10 にむけて・ポスト 2010 年目標～ユースから生物多様性の未来を考える～」を開催 TOKYO メディフェス 2010 分科会「市民とメディアが作るメディアの CSR ～ Twitter をはじめよう！」を開催 「生物多様性を知る × 伝える × 守る情報通信技術の活用術」を開催 「A SEED-TV ～生物多様性を守るため、テレビをみながらつづやこう～」新サイト公開開始 「A SEED DAY 2010 (同窓会) ～20 周年に向けて～」を開催 「ケータイとゴリラのつながりとは？～採掘が生物多様性とヒトにもたらすもの～」を開催 (エシカルケータイキャンペーン実行委員会共催) 「見つめ直そう、水の流れ。」を開催
10	生物多様性条約第 10 回締約国会議へ活動メンバーを派遣し、アクション、提言活動を実施 「COP10 重要論点フォーラム～これだけは譲れない！ユースの視点～」@名古屋を開催 「COP10 における Twitter 活用トレーニング」を開催 ユースの声「2020 年までに生物多様性の損失をゼロに！」への賛同を募る Tweetvite アクションを実施 「COP10&愛知ターゲット 報告会」を開催 (かけっぶちの生物多様性キャンペーン実行委員会主催)
11	「生物多様性条約 COP10 報告会 遺伝資源へのアクセスと利益配分 (ABS) に関する名古屋議定書とその課題～ABS 国内法策定と今後の国際交渉に向けて～」を開催 平成 22 年度地球環境基金「環境保全戦略講座 (生物多様性保全分野)」を委託運営
12	エコプロダクツ 2010 にて、ごみゼロナビゲーション / ケータイゴリラ / エシカルケータイキャンペーン実行委員会 / 水がブース出展
1	「一枚の写真が国家を動かす × 一つの動画が世界を変える」を開催
2	「グリーンジョブガイドブック」を発行
3	「Alternative Youth Meeting 2011 経済革命 NOW！フォーラム グリーンジョブで実現する未来ある生き方と経済のシステム」を開催

2010年度 役員一覧

〔 理 事 〕

江口 健介 (東京農業大学)

2010年度共同代表 / 生物多様性の損失をゼロに！プロジェクト担当

小林 邦彦 (法政大学)

2010年度共同代表 / 生物多様性の利用をフェアに！プロジェクト担当

羽仁 カンタ (ごみゼロナビゲーションチーム、FLAT SPACE)

ごみゼロナビゲーションチーム担当

濱中 聡史 (ごみゼロナビゲーションチーム)

ごみゼロナビゲーションチーム担当

土谷 和之 (特定非営利活動法人 まちづくり情報センター)

エコ貯金プロジェクト担当

鈴木 秀和 (友だちひろばなゆた)

メディア CSR プロジェクト担当

草刈 良允 (慶應義塾大学)

水プロジェクト担当

猪狩 隆清

電源カクメイプロジェクト担当

小川 暁平 (全国地球温暖化防止活動推進センター)

加治 知恵 (社団法人産業環境管理協会)

田辺 有輝 (特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター)

三本 裕子

事務局長

岸田 ほたる

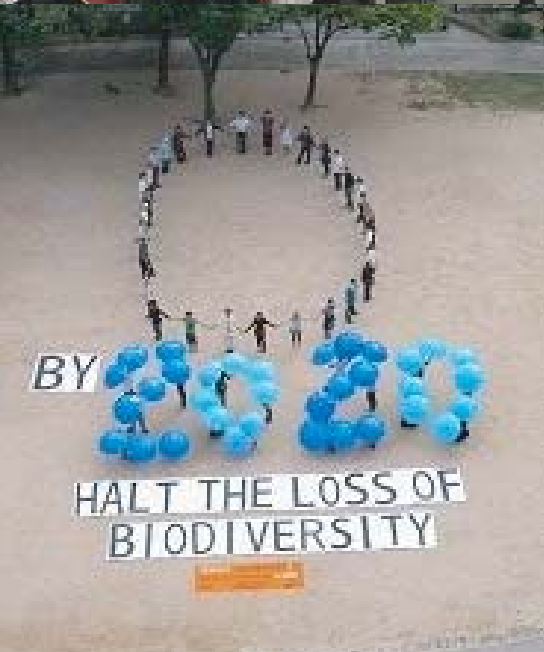
事務局スタッフ

高野 誠

事務局スタッフ

〔 監 事 〕

鈴木 智子 (鈴木智子公認会計士事務所)



国際青年環境 NGO A SEED JAPAN 2010年度 年次報告書

発行：A SEED JAPAN

発行日：2011年7月1日

編集責任者：岸田ほたる

編集・レイアウト：岸田ほたる・中川馨



一人が動く。社会は変わる。

国際青年環境 NGO A SEED JAPAN

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-23 TEL.03-5366-7484 FAX.03-3341-6030

E-mail: info@aseed.org URL: http://www.aseed.org/



A SEED JAPAN (Action for Solidarity, Equality, Environment and Development/ 青年による環境と開発と協力と平等のための国際行動)は、1991年10月に設立された日本の青年による国際環境NGO(非政府・非営利組織)です。1992年6月、ブラジルで開催された「地球サミット(国連環境開発会議)」へ青年の声をとどけるため、世界約50ヶ国70団体が参加して「A SEED国際キャンペーン」が行われました。その日本の窓口として、全国の青年の声をまとめ、国連へ提言書を提出したのが始まりでした。そして地球サミットを終えて会員制度を有する団体として新たにスタートしました。

私たちは国境を越えた環境問題とそこに含まれる社会的な不公正に注目し、より持続可能で公正な社会を目指しています。そのために現在の大量生産・大量消費・大量廃棄のパターンの変更と、南北間・地域間・世代間の格差をなくしていくことが必要だと考えます。このような社会を実現するために、未来の世を担う青年自らが行動を起こしています。(なお、A SEED JAPANは「ASJ」あるいは「アシードジャパン」と表記されることもありますが、同一団体を指します。)